



## ウメでモモヒメヨコバイが初確認されました！

茨城県病害虫防除所では、令和5年9月に県内のウメ園において、葉のカスリ症状と、ヨコバイ類の寄生を確認しました。寄生していたヨコバイ類の成虫について横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、モモヒメヨコバイであることが判明したため、特殊報を発表し注意を喚起しています。

本虫は沖縄県、和歌山県などを含む23都府県で発生が確認されています。国内では、ウメ、モモ、アンズ、オウトウ、ハナウメ、ハナモモ等のバラ科植物を加害することが報告されています。

詳細については [tokusyur5-3.pdf](https://www.tokusyur5-3.pdf) ([pref.ibaraki.jp](http://pref.ibaraki.jp)) を参照願います。

### 形態の特徴

成虫の体長は3.0~3.5mmで体色は黄緑色、複眼は黒色で、頭頂部に特徴的な黒点(写真3)がある。若齢幼虫の体色は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれて成虫と同じ黄緑色になる。

### 被害の特徴

- (1) 成虫および幼虫が葉に寄生し、吸汁加害することで葉色が徐々に薄くなる。葉全体が吸汁されるとカスリ症状が生じる。なお、被害が見られる葉の裏側には幼虫の脱皮殻が付着していることが多い。
- (2) 激しく吸汁加害された葉は早期落葉することがある。



写真1 ウメの葉のカスリ症状



写真2 ウメの葉に寄生した成幼虫および脱皮殻



写真: 茨城県病害虫防除所提供

写真3 モモヒメヨコバイの成虫(頭頂部の黒点)

### 防除対策

- (1) 本種の発生・被害の早期発見に努め、確認された場合は速やかに寄生葉ごと除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) ウメまたは小粒核果類\*ではモモヒメヨコバイに登録のある薬剤を使用する(表1、2)。  
(\*適用作物の分類であらず、ウメ、すももなどを含む小作物群)

表1 ウメのモモヒメヨコバイに登録のある薬剤 (令和5年12月7日現在)

薬剤名	使用方法	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	分類
マブリック水和剤20	散布	4,000倍	収穫21日前まで	2回以内	3A
アグロスリン水和剤	散布	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3A
ロディー水和剤	散布	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	3A

表2 小粒核果類\*のモモヒメヨコバイに登録のある薬剤 (令和5年12月7日現在)

薬剤名	使用方法	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	分類
テッパン液剤	散布	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	28

注) 表1、表2の分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。